

(同時記者発表：近畿地方整備局、中国地方整備局、四国地方整備局)

## 14万人のチカラ、ゴミ7万袋回収！

～平成19年度『瀬戸内 川と海のクリーンアップ大作戦』の実施結果について～

平成16年度から実施している『瀬戸内 川と海のクリーンアップ大作戦』について、平成19年度も地域の皆様のご協力のもとに瀬戸内海を囲む地域の川と海の清掃活動を実施することができました。平成19年度の実施結果の概要は以下のとおりです。

- 実施期間：平成19年6月～7月の2ヶ月間
- 実施箇所：瀬戸内海を囲む地域の河川と海岸
- 延べ参加人数：約14万人（九州：約1万4千人）
- 回収されたゴミの量：家庭用ゴミ袋 約7万袋（九州：約3千袋）  
標準的な家庭から出るゴミに置き換えると約3.2万世帯の家庭から1日に出るゴミに相当
- 多かったゴミの種類：プラスチック類

(参加者の感想)

一部の参加者より感想を聞いたところ、下記のような感想が多く聞かれました。

- ・人工的なゴミが多くて残念
- ・次回も参加したい

○問い合わせ先

国土交通省九州地方整備局 河川部 電話番号(092)471-6331(代表)

港湾空港部 電話番号(092)418-3358(代表)

(担当) 河川部 河川環境課 建設専門官 大島 伸介(内線3656)

港湾空港部 港湾計画課 課長補佐 河野 正文(内線323)

国土交通省(近畿地方整備局、中国地方整備局、四国地方整備局、九州地方整備局)

瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会(※)

※ 瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会(会長：江島 潔下関市長)は、瀬戸内海沿岸の各地域が連携して、瀬戸内海地域全体の更なる振興と発展を図ることを目的に平成3年に設立され、「海の路の構築」、「瀬戸内海の環境創造」、「瀬戸内の魅力発信」の3つの指針に基づき、航路情報提供サイト「みなとナビせとうち」の運営、各種イベントの開催等、様々な活動を行っている。平成19年9月27日現在で、瀬戸内海沿岸の107市町村、11府県、9国土交通省関係部局が加入。

平成19年度  
『瀬戸内 川と海のクリーンアップ大作戦』  
実施結果について

平成19年9月

九州地方整備局

『瀬戸内 川と海のクリーンアップ大作戦』にご参加いただきました皆様、地域の川と海をきれいにしようと活動されている皆様、ご協力ありがとうございました。

今後もより多くの皆様に清掃活動に参加していただけるよう努力するとともに、このような実態を広く皆様にお知らせすることにより、川と海、地域が連携して瀬戸内海及び河川の環境保全が図られるように努力したいと思っておりますので、引き続き川と海の環境保全にご理解とご協力をお願いします。

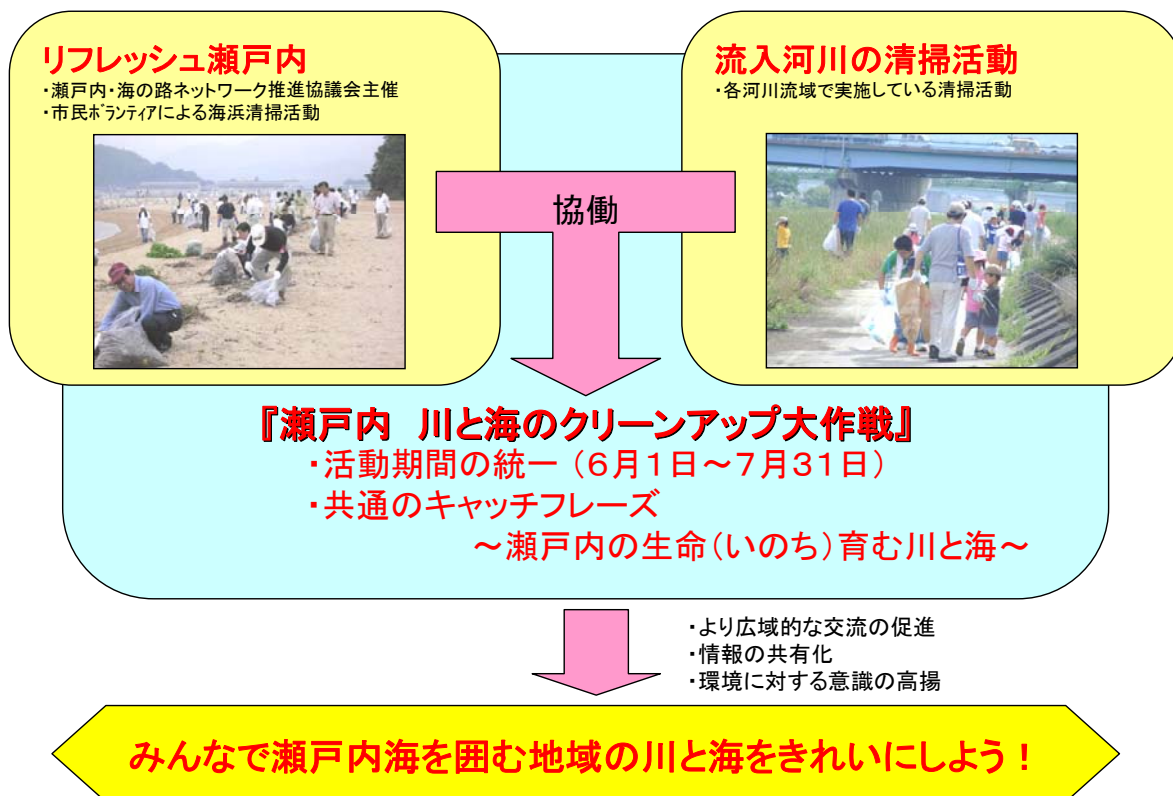
## 目 次

1. 『瀬戸内 川と海のクリーンアップ大作戦』とは	1
2. 実施状況	2
3. 実施結果	2
3-1. ゴミの量	
3-2. ゴミの内訳	
4. 参加者の感想	5
5. おわりに	5
参考—1 回収ごみ分類構成比率の算出根拠等	6
参考—2 九州の実施結果一覧表	7

## 1. 『瀬戸内 川と海のクリーンアップ大作戦』とは

瀬戸内海に流入する河川及び瀬戸内海の海岸では、平成16年度より活動期間を統一し、地域の皆様と国土交通省近畿・中国・四国・九州地方整備局及び瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会が協働で、「『瀬戸内 川と海のクリーンアップ大作戦』～瀬戸内の生命（いのち）育む川と海～」をテーマに清掃活動を行い、多くのゴミを回収してきました。

これは、瀬戸内海周辺でのより広域的な交流の促進、情報の共有化及び環境（美しい瀬戸内海の継承）に対する意識の高揚を目指して、活動日の統一、共通のキャッチフレーズのもと瀬戸内海沿岸の海岸及び流入河川で連携して清掃活動を推進しようとする取り組みです。



図—1 『瀬戸内 川と海のクリーンアップ大作戦』活動イメージ

## 2. 実施状況

実施期間：平成19年6月～7月  
 実施箇所：瀬戸内海を囲む地域の河川と海岸  
 [河川] 20水系  
 [海岸] 269箇所  
 延べ参加人数：[全体合計] 約14万人  
 [河川] 約7.7万人  
 [海岸] 約6.2万人

今年度は地域住民や団体、国や地方公共団体職員を合わせ、延べ約14万人もの方々に『瀬戸内川と海のクリーンアップ大作戦』にご参加いただきました。

※ 河川の水系数は一級水系直轄区間において河川愛護月間行事等で河川清掃を実施した水系の数。

※ 海岸の箇所数は、「リフレッシュ瀬戸内」の実施箇所数。

## 3. 実施結果

### 3-1. ゴミの量

ゴミの量：[全体合計] 約7万袋  
 [河川] 約3.1万袋  
 [海岸] 約3.7万袋

今年度は家庭用ゴミ袋に換算して約7万袋と、標準的な家庭約3.2万世帯から出る1日のゴミの量に相当する多くのゴミが収集されました。(ゴミ収集車で約233台分に相当)

※ 家庭用ゴミ袋(45リットル)で換算し、集計。標準的な家庭を4人として換算。(1人1年間あたりのゴミの量：約20袋/年)

※ 参考文献：環境省；一般廃棄物の排出及び処理状況等について

※ ゴミ収集車は家庭用ゴミ袋(45リットル)約300袋を収集できる容量として算出した。

表—1 『瀬戸内川と海のクリーンアップ大作戦』実施結果一覧表

平成19年度 ブロック名	河川			海岸		
	実施水系数	参加人数 (人)	ゴミ回収量 (袋)	実施箇所数	参加人数 (人)	ゴミ回収量 (袋)
和歌山	1	1,400	2,680	12	1,136	1,548
大阪	2	5,660	2,324	7	1,541	2,421
兵庫	2	1,300	22	40	8,528	3,132
岡山	2	2,043	1,290	11	2,462	1,546
広島	3	36,604	6,784	35	9,464	5,763
徳島	2	8,900	9,794	9	3,236	1,211
香川	1	3,660	178	61	9,916	6,686
愛媛	2	1,659	6,620	71	8,641	7,845
周防灘(山口)	1	4,198	296	18	14,565	4,875
周防灘(福岡・大分)	4	11,275	1,233	5	2,324	1,933
合計	20	76,699	31,221	269	61,813	36,960

### 3-2. ゴミの内訳

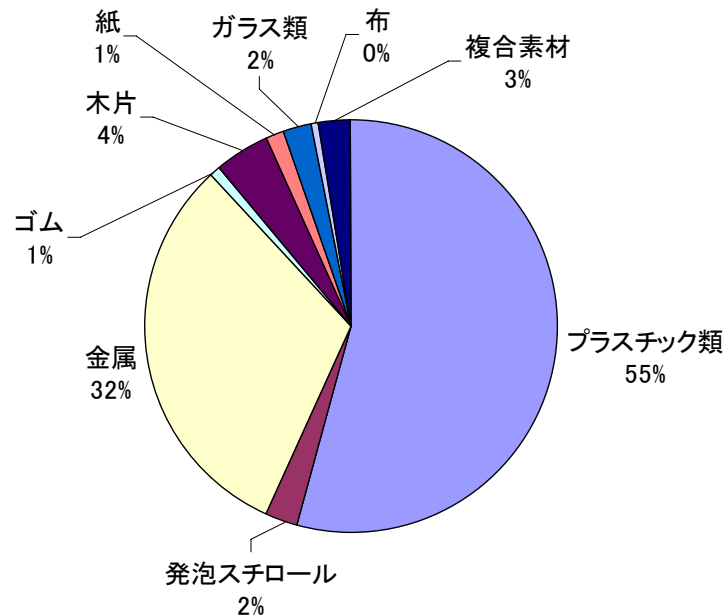
回収したゴミで多かった種類

[河川]：プラスチック類、金属（図—2 参照）

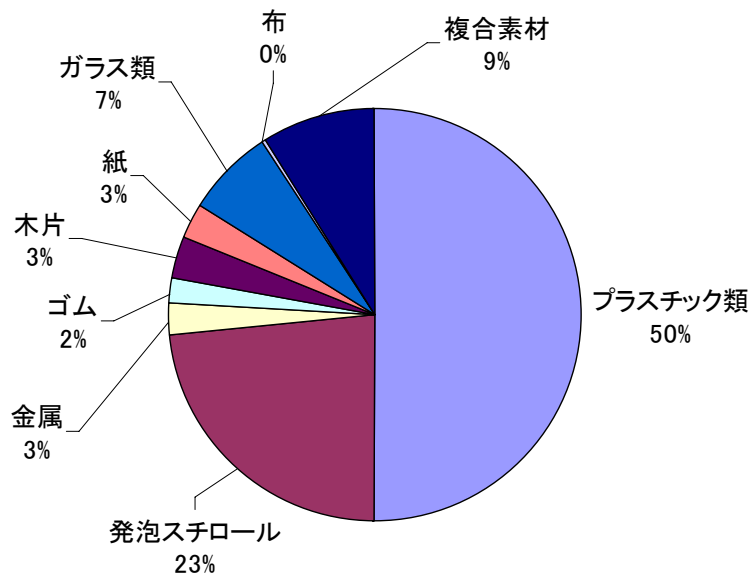
[海岸]：プラスチック類、発泡スチロール（図—3 参照）

回収したゴミで最も数が多かった種類はプラスチック類で、その他は発泡スチロール、金属などの自然界では分解しにくいゴミが目立ちました。

注) 複合素材他の内訳は、主に家庭用電化製品・自転車・自動車用バッテリー・花火の残がい等。



図—2 平成19年度 回収ゴミ分類構成比率(河川)



図—3 平成19年度 回収ゴミ分類構成比率(海岸)

※ 布類は0%となっているが全体数に対する個数が少ないため

実施風景



## 4. 参加者の感想

### 【河川】

- ・ 年々ポイ捨ては減っていて、ゴミの量は少なくなっている。ただ、布団やタイヤなどの大型ゴミがあり、驚いた。
- ・ こういったイベントを行っているのを知って、今年初めて参加した。また来年もやりたい。
- ・ 市民の環境意識が高まったのか予想以上にゴミが少なかった。

### 【海岸】

- ・ 子供達がよく使う海水浴場なので、いつも綺麗にしておきたい。
- ・ 砂浜を歩いてみると、思ったより多くのゴミがあって、びっくりした。
- ・ 毎年参加しているが、ゴミが少なくなることがない。釣りをする人の糸とかペットボトルとか。海藻とか自然のものはしかたがないが、人工的なゴミが多いのが気になります。

※ 参加者の感想は一部の紹介とさせていただきます。

ゴミの量については多いと感じる人や徐々に減っていると感じた人、感じ方は人それぞれでしたが、人工的なゴミ（タバコの吸い殻、飲食物のカラ、布団、タイヤ等）が捨てられていることに対し、不道徳な人がいて残念という声が多く聞かれました。

また、継続して参加いただいている方も多いようで、河川や海岸の清掃活動が地域の行事として定着してきているように思われます。

## 5. おわりに

今年度も多くの方々に参加いただいたおかげで、たくさんのゴミを回収することができました。また、回収したゴミの内訳から、ちょっとした心づかいで川や海を汚さないようにできるものが数多くあることが分かりました。この活動を通じてより多くの人に環境問題に対する意識を高めていただき、ゴミを捨てる人が少しずつでも減少すればと思います。

今後も引き続き『瀬戸内 川と海のクリーンアップ大作戦』を実施しますので、是非来年度の本活動にも参加してください。多くの方々の参加を心よりお待ちしております。



## 【参考—1】回収ゴミ分類構成比率の算出根拠等

### ☆ 河川で改修したゴミの分類構成比率の算出について

河川の清掃活動のうち7箇所においてゴミの種類を個数で集計し、その割合を算出しています。

### ☆ 海岸で回収したゴミの分類構成比率の算出について

リフレッシュ瀬戸内の13箇所で開催された「海の健康診断調査」の実施結果を分類した結果です。ゴミの種類を個数で集計し、その割合を算出しています。

### ☆ 河川愛護月間

昭和49年から毎年7月を「河川愛護月間」と定め、河川愛護運動を実施しています。毎年、地域住民・市民団体・河川愛護団体・関係行政機関等と国土交通省・都道府県・市町村が協働で、流域全体の良好な河川環境の保全・再生を積極的に推進するとともに、国民の河川愛護の意識の醸成を図ります。平成19年度も「川が好き 川にうつった 空も好き」を推進標語として、月間中はポスター・ちらし等による広報活動をはじめ、河川のクリーン作戦。絵画・作文コンクール等、多様な活動を実施しました。

### ☆ リフレッシュ瀬戸内

瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会を広く一般に知ってもらうとともに、海浜の清掃活動という“誰もが参加しやすい活動”を通じて“美しい瀬戸内を守っていく”ことを参加者をはじめとする多くの人々に訴えていくことを目的に、協議会の骨格事業として取り組んでいる活動です。平成5年から行っており、平成19年までの15年間で延べ約145万人が参加、毎年多くの市民の方々からのボランティア協力を得ています。

### ☆ 海の健康診断

「リフレッシュ瀬戸内」活動でゴミを拾うことにより直接的な美化効果は上がっていますが、今後は“ゴミを捨てない”“ゴミを捨てさせない”といったゴミの排出抑制につながる予防的な取り組みを推進することが大切と考えています。このため、「リフレッシュ瀬戸内」の実施期間に合わせ、国際ビーチクリーンアップキャンペーンで実施されてる手法を取り入れた「海の健康診断調査」（ゴミの組成調査）をボランティアの協力により実施し、海岸ゴミの実態を調査しています。なお、「海の健康診断調査」では人工的なゴミだけを調査対象としており、海藻、流木、貝殻、草木等はカウントしていません。

## 【参考—2】. 九州の実施結果一覧表

『瀬戸内 川と海のクリーンアップ大作戦』の実施結果のうち、周防灘（福岡・大分）ブロックの各実施箇所におけるゴミ回収量・参加人数などについては次の通りです。（大人と子供別で参加人数が把握できていない箇所については、それぞれの人数が無記入となっています。）

表—2 周防灘（福岡・大分）ブロックの実施結果

実施箇所	実施日	ゴミ収集量 (袋)	参加人数(人)		
			総数	大人	子供
山国川 下宮永堰付近、耶馬溪サイクリングターミナル付近	6月2日(土)	3	31	21	10
大分川、七瀬川、大野川、乙津川、 大分市田ノ浦ビーチ	7月1日(日)	※4	2,844	1,882	962
番匠川を中心とした旧佐伯市内全域	7月1日(日)	1,226	8,400	—	—
中津市 大新田海岸	6月10日(日)	22	200	140	60
姫島村 村内海岸一円	7月1日(日)	504	940	770	170
別府市	台風のため中止	—	—	—	—
佐伯市 大入島海岸	7月1日(日)	222	500	400	100
北九州市 いさんだの浜、やまえだの浜の2カ所	6月17日(日)	1,185	684	—	—
合 計		3,166	13,599	3,213	1,302

※田ノ浦ビーチのみの回収量